

地球研本研究（F R）プロジェクトに係る事後評価書

2007年 3月 1日

研 究 課 題	乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響
研 究 期 間	平成14年4月1日 ～ 平成19年3月31日
プロジェクト・リーダー	渡邊 紹裕

研究目的は総合地球環境学研究所の実施方針に適合し、当初の研究計画および目的は部分的に達成された。

評価委員会のメンバーのコメントは以下の通りである。

[1] 気候について良いシナリオが設定された。方法はとても良い。時間的な制約にもかかわらず、本プロジェクトはうまく実施された。別のシナリオによる影響の調査も行なわれた。

[2] 食糧生産にたいする Climate impact は非常に重要（relevant）である。この問題へのひとつの回答を与えたことは評価できる。しかし結果の一般化、普遍化という点では物足りない。今後の研究に期待したい。

[3]

- ・評価すべき点のひとつは温暖化における利点をも考慮していることである。
- ・結果は充分高く評価さるべきと思われる。
- ・社会実験に関わる部分では、社会的責任もしくは倫理的問題はどうなるのだろうか。

[4] 本プロジェクトにおいて「疑似温暖化実験手法」が開発され、農業生産への影響を議論するための気候シナリオが設定された。そして将来起こりうる環境問題を具体的に指摘し、定量的評価を行い、その意味は大きいと思われる。しかし、「人間と自然の相互作用」と栽培植物種も含めて農業生産システムのあり方の説明がもう少し欲しいように思われる。とはいえ、地球研の設置目的や研究目的によく合っており、また当初の研究計画・目的はほぼ達成していると思われる。

[5] 限界はあるものの、本プロジェクトは、地域社会が気候や環境の将来的な変化に自ら適応するための道筋を理解する新しいモデルを提供した。本プロジェクトがより学際的に実施されれば、より興味深いモデルができただろう。

[6] 地球研の基本的なコンセプト（「人間と環境の相互作用を解明する」など）に基づき、本研究プロジェクトがトルコの農業を研究テーマに選んだことは理にかなっており、いいだろう。トルコの研究パートナーたちが研究成果を一定程度共有したことは評価したい。技術および方法に関して二国間でさらに協力することにより、学術的発展の可能性が高まることに期待する。

[7] 収集された基準データは重要であり、すぐに現状に適用でき、かつ目的にもかなっている。持続可能な農業生産システムを構築する上で、次のステップが非常に重要だ。

[8] 地球研の目的にたいへんよく合致しており、トルコの公共の福利に資するものである。

[9] 地球研の目的に見事に合致したプロジェクトである。学際性やトルコの研究者との協力において優れている。科学上の刊行物（論文や書籍など）がプロジェクトから多く生み出されている。利害関係者には成果を伝えて交流する取り組みを続ける必要がある。

[10] 本プロジェクトは、将来の気候変動に対する農業の適応を促進するためのモデルの模範的なツールボックスを生み出した。本プロジェクトでは、プロジェクトに係る諸問題に取り組む組織からのフィードバックが見られないのが残念だ。

[11] 本プロジェクトの目的は非常に時宜にかなっており、理解を深めて将来を予想するという目的は達成されたようだ。モデルにはさらに詳細に社会的側面を組み込む（カバーする）必要がある。

[12] 最も重要かつ意義深い成果は、影響の分析と、とりわけ対応戦略に関する方法に関して提案し、テストしたことだ。この総合的問題の主な目標は達成された。

政府の意志決定者にとって、この結果は有用である。この点は高く評価される必要があるのではないだろうか？土地所有権と水利権の問題には触れていなかった。重要ではないのか？専門的な点では、本プロジェクトは将来の気候予想に再解析（NCEP）をどのように取り込むことができたのだろうか？再解析は、準備段階で、あるいは初期条件として利用されたのだろうか？

地球研研究プロジェクト評価委員会委員長

巖 佐 庸 印



委 員 （別添のとおり）